

豚 肉 情 勢

12月12日 更新 JA全農ミートフーズ株式会社

項 目		内 容		備 考		
供給	1.国産	○ 10月の全国豚と畜頭数は、1,458千頭と前年を上回った。(前年比101.5%)。 地域別と畜頭数(数値は前年同月比);北海道105.6%、東北97.2%、関東103.0%、北陸甲信越99.7%、東海106.6%、近畿103.7%、中四国101.3%、九州・沖縄100.5%		国内生産量の推移 (千頭:%) 農水省出荷予測 (千頭:%)		
	2.輸入	○ 11月の全国と畜頭数は、1,410千頭(速報値11月30日まで集計、前年比95.0%)と前年を下回る見込みとなった。 なお、稼働日数は昨年より1日少なく、1日当たりの平均と畜頭数は70,485頭(前年実績:70,633頭/日、前年差▲148頭/日)となった。 ○ 肉豚生産出荷予測(農水省食肉鶏卵課;11月21日付け)によると、12月;1,482千頭(前年比101%)、令和7年1月;1,417千頭(同100%)、2月;1,344千頭(同98%)、3月:1,458千頭(同106%)、4月:1,404千頭(同100%)であり、今後5か月間の合計頭数は前年比約101%と前年並みの見込み。 ○ 10月の輸入通関実績は、豚肉全体で86.8千ト(前年比123.6%、前月比110.2%)と前年を上回った。 内訳は、チルドが34.2千ト(前年比102.0%、前月比112.9%)、フローズンは52.6千ト(同143.3%、同108.6%)となった。 国別でみると、チルドではカナダが増加し、フローズンではスペイン、米国、カナダ、デンマークが増加した。 (参考)形態別相手国別輸入数量 チルド ;カナダ17.5千ト(前年比107.2%)、米国13.3千ト(同99.1%)、メキシコ3.4千ト(同90.7%) フローズン ;スペイン15.0千ト(同145.6%)、米国5.9千ト(同189.4%)、メキシコ5.5千ト(同93.6%)、カナダ4.9千ト(同125.5%)、デンマーク4.7千ト(同125.4%) ○ (独)農畜産業振興機構の需給予測(11月27日公表)によると、11月の輸入量:76.2千ト(前年比101.9%)、12月の輸入量:78.2千ト(同115.6%)と11月、12月ともに上回ると見込まれる。 チルドは、11月予定のカナダ産の入船が12月に遅れることが見込まれるため、11月は前年同月を下回ると予測し、一方、12月は上回ると予測する。 フローズンは、価格優位性のあるブラジル産が増加する他、米国産やEU産の増加も見込まれること等から、11月、12月ともに前年同月を上回ると予測する。 3か月平均では、チルドは下回り、フローズンは上回ると見込んでいる。 令和6年11月:合計76.2千ト(前年比101.9%)、チルド28.3千ト(同79.3%)、フローズン47.9千ト(同122.4%) 令和6年12月:合計78.2千ト(前年比115.6%)、チルド31.6千ト(同102.4%)、フローズン46.6千ト(同126.6%) 直近3か月(10月～12月)平均:合計79.8千ト(前年比112.6%)、チルド30.9千ト(同92.7%)、フローズン48.9千ト(同130.4%)		R2年 12月 1,482 101 R3年 1月 1,417 100 R4年 2月 1,344 98 R5年 3月 1,458 106 R6年 4月 1,404 100		
需要	1.家計消費	○ 総務省発表の10月度家計調査報告によると、全国二人以上の1世帯当たり豚肉購入数量は1,774g(前年比95.9%)、支出金額が2,850円(同99.6%)となり、購入量は前年同月を下回ったが、金額は前年並みとなった。		輸入量の推移 (ト・%) 財務省 :通関実績		
	2.小売動向	○ 日本スーパーマーケット協会など食品関連スーパー3団体の10月の販売統計速報によると、畜産部門の売上高は1,229.2億円(前年比101.1%、既存店ベース99.5%)と前年上回った。 10月は、全般的に相場高が継続する中、気温が高く推移したため鍋関連の動きが鈍くやや不調となった。牛肉は、輸入肉が不振だが国産牛は前年並みで推移した。豚肉は、ひき肉や小間切れなどの低価格商品の動きが良かった。鶏肉は節約志向の中で比較的堅調だが、鳥インフルエンザ発生の影響を心配するコメントもみられる。加工品は高値傾向で不振が続いていたが、一部で回復傾向もみられる。 ○ 日本チェーンストア協会が公表した10月販売概況によると、畜産品の売上は866.9億円(店舗調整後で前年比101.0%)となり、前年並みとなった。 豚肉、鶏肉の動きは良かったが、牛肉の動きは鈍かった。鶏卵、ハム・ソーセージの動きも鈍かった。 ○ 残暑の影響や一部地域での疾病発生等から、肉豚生育不良により国内出荷頭数が想定を下回った。 一方で、例年より冬の到来が遅く鍋物需要等が振るわず需給は緩んでいたが、下旬になり鍋物需要が増加し需給はひっ迫した。		R2年 891,807 93.0 416,334 102.2 R3年 903,455 101.3 420,361 101.0 R4年 977,158 108.3 403,854 96.3 R5年 919,713 94.2 393,416 99.1 R6年 7月 86,250 115.1 27,843 91.9 R6年 8月 84,140 113.8 29,043 81.9 R6年 9月 78,715 127.4 30,296 113.5 R6年 10月 86,780 123.6 34,193 102.0		
在庫	3.加工肉仕向量	○ 日本ハム・ソーセージ工業協同組合発表の10月の豚肉加工品仕向量は31.2千ト(前年比110.2%)と、加工品の値上げによる販売不振は続くが、前年を上回った。 内訳は、国産原料6.0千ト(前年比105.6%)・輸入原料25.1千ト(同111.3%)となった。 なお、上記仕向量とは別枠のシーズンドポークは9.6千ト(前年比93.4%)と、前年を下回った。		家計消費量 (㌔, 円, %)		
	1.在庫	○ (独)農畜産業振興機構の需給予測(11月27日公表)によると、10月末の推定期末在庫量は223.3千ト(前年比105.1%、前月比100.2%)となり、前年を上回った。 内訳は、輸入品;201.9千ト(前年比104.7%、前月比100.3%)と前年を上回り、国産品;21.4千ト(同108.6%、同99.1%)も前年を上回った。 また、今後の期末在庫は、11月は214.6千ト(同105.0%)、12月は209.1千ト(同109.2%)と前年を上回って推移するものと見られる。		R2年 22,973 108.5 32,861 110.9 R3年 22,559 98.2 31,892 97.1 R4年 22,297 98.8 32,487 101.9 R5年 22,031 98.8 33,553 103.4 R6年 7月 1,702 96.4 2,724 101.0 R6年 8月 1,707 98.3 2,749 102.5 R6年 9月 1,740 97.7 2,688 97.6 R6年 10月 1,774 95.9 2,850 99.6		
枝肉相場	1.R6年11月速報値	○ 11月の東京市場枝肉卸売価格(速報値;11月30日時点)は、570円/kg(前年比109.8%)と前年を上回った。 11月は、残暑の影響や一部地域での疾病発生等から、肉豚生育不良により国内出荷頭数が想定を下回ったものの、気温低下が例年より遅く鍋物需要等がふるわず中旬までは需給が緩んで推移していたが、下旬に気温低下から鍋物需要等の増加により需給が逼迫したため、前月は下回ったが前年を上回って推移した。		加工品仕向量 (千ト・%) 市況の推移(東京市場)(円/kg・%)		
	2.予測	○ 12月は、前月・前年より国内出荷頭数の増加が見込まれるものの、本格的な冬の到来により鍋物需要や年末向け需要等から需給がひっ迫すると想定されること、また、暦の関係から年末年始のと畜場稼働が、例年より休日の期間が長くなることで年始分の手当も必要となり需要が更に増加すること等が見込まれるため、強含みでの推移を想定する。		R2年 376.7 101.5 561 106.9 R3年 379.4 100.6 546 97.3 R4年 368.5 97.4 582 107.0 R5年 336.4 91.5 609 104.9 R6年 7月 31.1 112.1 765 107.7 R6年 8月 29.2 108.6 666 95.8 R6年 9月 29.5 108.8 619 110.5 R6年 10月 31.2 110.2 570 109.8		
		<相場予想: 東京市場、税込み>				
		10月実績	11月速報値	12月予測	1月予測	
		【上物】(前年比)	619円/kg(110.5%)	570円/kg(109.8%)	660円/kg(119.6%)	550円/kg(111.8%)